



ホールドマウンテン Hold Mountain

佐川好弘 Takahiro SAGAWA

作者は、二次元の漫画の表現の中で、画面に動きを与える書き文字を、3次元の彫刻で表現した作品を中心に制作をしています。

今回は、六甲山カンツリーハウスで倒れた大木の切り株を使って、ボルダリングができる作品を制作しました。この作品では、作家がつくった書き文字風のホールドを掴んで登ります。様々な言葉のホールドがあるので、自分が掴んだ言葉を繋げてみたり、逆に登る前に言葉を選んでから、その通りに登ってみるなど、自分なりの方法で作品を体験できます。

公園に置かれている遊具のように体感しながら、思いがけない言葉のつながりが発見できるかもしれません。



ハッピー・ソフトクリーム! Happy whippy ice cream

松蔭中学校・高等学校美術部

Shoin Junior and Senior High School Art Club

2017年、2018年に続き3回目の出展になる同美術部の部員は年毎に入れ替わりますが、そのパワーは健在です。これまでもシンボリックな立体作品の展示とともに生徒諸氏による力のかもったパフォーマンスが人気を博してきました。

歴史と伝統のある女学校の中ではとくに個性的な美術部員たち。中学生、高校生が既存概念にとらわれない自由な発想でプランを出し合いました。思いがけない仕掛けやパフォーマンスもあり、アートの表現の自由さが改めて存分に感じられる作品に仕上がっています。



繰り返される営み Repetitive Activity

野村由香 Yuka NOMURA

作品を構成しているのは、作者が考案した装置と六甲山の土、そして行為の痕跡です。本展の会期中、六甲山に通いながら作品を更新するパフォーマンスを行います。土と格闘する姿は 1950 年代から 70 年代に掛けて気鋭のアーティスト達が取り組んでいた身体性を伴う表現活動を彷彿とさせます。「現代の様々な困難な状況において、いかに人は生きることができるかということに関心を持って制作している」と作家は述べています。

自然の大きな循環の一部として自身の身を委ねることを困難なことと捉える態度が、独特な表現を生みました。強く印象に残る作品です。



浅野忠信 3634 展

Tadanobu Asano 3634 Exhibition

浅野忠信 Tadanobu ASANO

日本を代表する俳優である浅野忠信、ミュージシャンとして活躍していることはよく知られていますが、画家としての活動はあまり知られてきませんでした。本展示は東京のワタリウム美術館で行われた大規模な個展「TADANOBU ASANO 3634 浅野忠信展」(2019年)に出品された作品の中から選抜、巡回されたものです。

過密なスケジュールのなかで、筆の赴くままに描かれた作品群は自由であり闊達です。描く行為そのものを楽しみ、心象を表現する行為は、演技や演奏と密接な関係にあるようにも思われます。人物や風景、アメリカンコミックを思わせる画風やシュールな展開など見るものを飽きさせません。

広大な表現のフィールドをもつ作者の表現、その一端をお楽しみください。



空のない雲

Clouds without the sky

盛 圭太 Keita MORI

パリを拠点に独特の技法でドローイングを行う作家です。その技法は紙や壁の上に、糸や紐などをグルーガンで貼るといったもの。本展示では特別に建てられた壁に、紺色を主要色とした多様な色の糸や紐、銅線で幾何学的かつ建築的な線を描きました。これらの線は厳密に言えば立体ですので、作品全体は微かな陰影を持つこととなります。六甲山で滞在しながら下書きなしで描かれた作品には、この山の何かが影響を及ぼしているのでしょうか。

一見製図のようにも見える、理知的で静かな印象深い絵画作品です。